

作成：2005年11月22日

改訂：2016年 6月 1日

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 NS弾ボンド
 会社名 日本化成株式会社
 住 所 埼玉県加須市西ノ谷801-1
 担当部門 中央研究所
 電話番号 0120-974237 (製品問合せダイヤル)

2. 危険有害性の要約

GHS分類

健康に対する有害性

皮膚腐食性/刺激性：区分2

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性：区分2

皮膚感作性：区分1

発がん性：区分2

環境有害性

水生毒性-急性：区分3

水生毒性-慢性」区分3

ラベル要素

絵表示	
注意喚起語	危険
危険有害性情報	<p>皮膚刺激 重篤な眼への刺激 アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ 発がんのおそれの疑い 単回暴露により臓器の障害 単回暴露により臓器の障害のおそれ 長期または反復暴露により臓器の障害 水生生物に有害 長期的影響により水生生物に有害</p>

3. 組成・成分情報

- 1) 単一製品・混合物の区別：混合物
- 2) 化学名または一般名：シリコーン変性ポリマー系弾性接着剤
- 3) 化学特性（化学式）：公表はご容赦ください。

4) 化管法及び安衛法による成分表示

成分	官報公示整理番号	安衛法	化管法 (P R T R)	CAS番号	含有量
	化審法/安衛法				
酸化チタン	1-558	該当	—	13463-67-7	～5%
酸化カルシウム	1-189	該当	—	1305-78-8	～5%
すずおよびその化合物	非公開/未登録	該当	—	非公開/未登録	～5%
カーボンブラック	—	該当	—	1333-86-4	～5%

5) JIS A 5548によるホルムアルデヒド放散等級

F☆☆☆☆ 陶磁器質タイル用接着剤

6) 揮発性化合物等に関する情報

以下に示す物質に関しては、測定データはないが、原材料・製造において使用していない。

- ①アセトアルデヒド
- ②トルエン
- ③キシレン
- ④エチルベンゼン
- ⑤スチレン
- ⑥パラジクロロベンゼン
- ⑦テトラデカン
- ⑧クロルピリホス
- ⑨フェノブカルブ
- ⑩ダイアジノン
- ⑪フタル酸ジ-n-ブチル
- ⑫フタル酸ジ-2-エチルヘキシル

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、安静にする。必要に応じて、医師の診断を受ける。
- 目に入った場合 : 清浄な水で最低15分以上、目を洗浄したのち、直ちに医師の診断を受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 付着した部分を水または温水を流しながら石鹸で洗い流す。皮膚刺激または発疹が生じた場合は、直ちに医師の診断・手当てを受ける。
- 飲み込んだ場合 : 多量の水を飲み吐き出した後、直ちに医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 火災の場合は泡、粉末、炭酸ガスを使用する。
- 火災時の特定危険有害性 : 燃焼ガスには、一酸化炭素等の有害ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙を吸入しないように注意する。
- 特定の消火方法 : 火元への燃焼源を断ち、上記の消火剤を使用して消火する。また、延焼の恐れのないよう散水して周辺のタンクや建物等を冷却する。消火作業は風上から行う。
- 消火を行う者の保護 : 適切な保護具を着用するほか、状況によっては、有機ガス用防毒マスクなどの保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項 : 作業の際には、適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、ガスを吸入

しないようにする。風下の人を退避させ、風上から作業する。付近の着火源となるものを速やかに取り除く。着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。漏出した場所の周辺に、ロープを張る等して関係者以外の立ち入りを禁止する。こぼれた場所は滑りやすいので注意する。

除去方法：少量の場合は、紙や布で拭き取る。多量の場合は、スコップ等ですくい取り空容器に回収する。どちらの場合も産業廃棄物として処理する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策：取扱いは換気のよい場所で行う。屋外での取扱いは、できるだけ風上から作業する。取扱い場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。取扱い場所の近くに、緊急時に洗眼等の設備を設け、取扱い後に手、顔等をよく洗うがいをする。また、休憩場所には汚染をさけた保護具を持ち込んでほならない。

安全取扱い注意事項：取り扱い後は手洗い及びうがいを十分に行なう。

保管

適切な保管条件：直射日光と凍結を避け、乾燥した冷暗所（5～35℃）に保管する。

技術的対策：密閉容器に入れ、涼しくて換気のよい場所（冷暗所等）に直接日光や雨水を避けて貯蔵する。

安全な容器包装材料：該当なし

その他：消防法、労働安全衛生法等の法令の定めるところにしたがう。

8. 暴露防止及び保護措置

許容濃度

(酸化カルシウム) ACGIH(1990) TWA : 2mg/m³ (上気道刺激)

(カーボンブラック) ACGIH(1985) TWA : 3.5mg/m³

(酸化チタン) ACGIH(1992) TWA : 10mg/m³ (下気道刺激)

(すず及びすず化合物) ACGIH(1992) TWA : 0.1mg-Sn/m³ STEL : 0.2mg/m³ (皮膚) (じん肺、眼及び上気道刺激、頭痛、吐気)

設備対策：取扱いについては、全体換気装置の設置場所または通気のよい場所で行うこと。

取扱い場所の近くに、緊急時に洗眼及び身体洗浄を行うための設備を設置する。

保護具：呼吸用保護具

簡易防じんマスク

目の保護

側板付き保護メガネ(眼鏡)、ゴーグル型

手の保護

保護手袋(ゴム)

皮膚及び身体の保護具

保護服、保護長靴、保護前掛け

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态

液体(ペースト状)：濃灰色、白色

物理的状态が変化する特定の温度/温度範囲

密度：1.5 g/cm³ (20℃)

引火点：493K (220℃) 以上

10. 安定性及び反応性

安定性：通常の手扱いにおいては、安定であり危険性はない。

反応性：該当なし

危険有害な分解生成物：該当なし

11. 有害性情報

急性毒性

経口毒性成分データ

(酸化チタン)ラット LD50 7500mg/kg

局所効果

皮膚腐食性/刺激性成分データ

(酸化チタン)ヒト 0.3mg/3D-I;MILD

発がん性

(カーボンブラック)IARC-Gr. 2B;ヒトに対して発がん性があるかもしれない。

(酸化チタン) IARC-Gr. 2B;ヒトに対して発がん性があるかもしれない。

(カーボンブラック)ACGIH-A4(1985);ヒト発がん性因子として分類できない。

(酸化チタン) ACGIH-A4(1992);ヒト発がん性因子として分類できない。

(すず及びすず化合物) ACGIH-A4(1992);ヒト発がん性因子として分類できない。

(カーボンブラック) 日本産衛学会-2B：人間に対しておそらく発がん性があると判断できる証拠が比較的十分でない物質

12. 環境影響情報

環境有害性

水生毒性

水生生物に有害

長期的影響により水生生物に有害

水生毒性

(酸化カルシウム)魚類(コイ) LC50=1070mg/l /96h (IUCLID, 2000)

(カーボンブラック)甲殻類(オオミジンコ) EC50>5600mg/l /24h (IUCLID, 2000)

(酸化チタン)甲殻類(オオミジンコ) EC50>1000mg/l /48h (AQUIRE, 2003)

水溶解度

(酸化カルシウム)1.2g/l (HSDB, 2004)

(カーボンブラック)溶けない (ICSC, 1995)

(酸化チタン)溶けない(HSDB, 2004)

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物：都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。

焼却する場合は焼却設備を用いて、少量ずつ焼却する。

汚染容器・包装：空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類

国連番号に該当しない

海洋汚染物質

有害液体物質 (Y類同等) : 酸化チタン

輸送の特定の安全対策及び条件

容器に漏れないことを確かめ、転倒、落下、破損がないように取扱い、荷崩れの防止を確実に行う。

消防法、船舶安全法等の法令の定めるところに従う。

15. 適用法令

消防法 : 酸化カルシウム (貯蔵等の届出を要する物質 (法第9条の3・危険物令第1条の10))

PRTR法 : 非該当

労働安全衛生法 : 表示対象物質 酸化カルシウム (法第57条の2、施行令第18条の2別表第9、政令番号 第190号)

表示対象物質 酸化チタン (IV) (法第57条の2、施行令第18条の2別表第9、政令番号 第191号)

表示対象物質 すずおよびその化合物 (法第57条の2、施行令第18条の2別表第9、政令番号 第322号)

表示対象物質 カーボンブラック (法第57条の2、施行令第18条の2別表第9、政令番号 第131号)

じん肺法 : 施行規則第2条別表 粉じん作業

航空法 : 酸化カルシウム (腐食性物質、施行規則第194条危険物告示別表第1)

16. その他の情報

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データにもとづいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性、揮発性有機化合物等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は通常の実施を前提としたものであるため、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。